

2022年FIA-F4選手権シリーズ
HFDP参加選手レポート
第6大会（第11戦／第12戦） 参戦レポート

10月1日（土）～2日（日）、オートポリス・インターナショナルレーシングコース（大分県）で2022年FIA-F4選手権シリーズ第6大会（第11戦、第12戦）が開催されました。HFDP（ホンダ・フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト）からは#5小出峻（1999年10月26日生まれ 22歳）、#6西村和真（1999年7月21日生まれ 23歳）、#7三井優介（2002年4月22日生まれ 20歳）の3人が参戦しました。

小出、連勝で三井を従えランキングトップへ

■公式予選（30分間）：天候/晴れ 路面/ドライ

この大会についてはエントリー台数が35台に留まったため、公式予選セッションはグループ分けを行わず、参加車両全車が出走する30分間の1セッションで行われました。

朝から晴天となる中、公式予選が午前8時30分からドライコンディションで始まり、全車ドライタイヤでコースイン、ウォームアップからタイムアタックが始まりました。



まず先頭を走ってタイヤのウォームアップをしていた#7三井が計測1周目にベストタイムを記録しトップに立つと、それを目標に本格的なタイムアタック合戦が始まりました。#5小出はタイムアタックにかかると快調にタイムを縮め、#7三井のタイムを破ってトップに立ち、#6西村も上位へ上がってきました。

ところがタイムアタックも佳境となった午前8時38分、セッションは一旦赤旗で中断されました。この時点でトップは#5

小出、#7三井は4番手、#6西村は5番手につけていました。セカンドタイムではやはり#5小出がトップ、#6西村が3番手でしたが、#7三井はアタック中にタイヤを滑らせすぎるミスを犯したこともあって1分55秒台に留まり、中団に沈んでいました。

セッションは午前8時48分、残り15分30秒で再開、タイムアタックが始まりました。ここで#7三井はタイムを伸ばし#5小出に迫りますが届かず2番手となり、その後3番手へ順位を落としました。#6西村もタイムを縮めますが5番手となったところで2回目の赤旗が提示されセッションは午前8時51分に中断されました。



結局セッションはこのまま打ち切りとなり、この時点での順位でスターティンググリッドが決まりました。この結果、第11戦、第12戦とも#5小出がポール

ポジション、#7 三井が3番手、#6 西村が5番手のスターティングポジションを手に入れました。

【第11戦スターティンググリッド】

1番手 #5 小出 峻 1分52秒666
3番手 #7 三井 優介 1分53秒119
5番手 #6 西村 和真 1分53秒520

【第12戦スターティンググリッド】

1番手 #5 小出 峻 1分52秒903
3番手 #7 三井 優介 1分53秒252
5番手 #6 西村 和真 1分53秒662

■第11戦決勝レース（13周）：天候/晴れ 路面/ドライ



快晴のオートポリスでは、第11戦の決勝レースが行われる午後にはさらに気温が上がり、午後1時55分、フォーメーションラップが始まりました。ところが1周してスターティンググリッドに着いた時点で、後方車両の並び位置に混乱があったためスタートディレイとなり、レースは1周減算の12周でやり直されることになりました。

スタート合図が下された瞬間、#5 小出の加速は伸びず、2番手スタートの#35 荒川選手に並ばれましたが引かず、1コーナー、2コーナー、3コーナーと並走してようやくトップに抜け出すこととなりました。

#5 小出、#35 荒川手には3番手スタートの#7 三井が続き、5番手スタートの#6 西村はスタート後のポジション取りがうまく行かず7番手へ順位を落としてレースを始めました。しかしオープニングラップのうちに後続集団の中でアクシデントが発生、セーフティーカーが介入しました。



レースは3周目からリスタートとなりましたが、先頭の#5 小出はうまく加速、トップを守ってレースを再開しました。#7 三井は#35 荒川選手に続く3番手を守りました。

6周目に再びアクシデントが発生しセーフティーカーが介入、レースは9周目から再開されました。ここでも#5 小出はトップを維持しましたが、3番手の#7 三井は後方から#37 中村選手に並びかかられ、1コーナーで辛くも3番手ポジションを守ることとなりました。



その後、トップの#5 小出はタイヤを温存させながら首位を堅持し、そのまま残り周回を走り切って優勝を飾りました。3番手#7 三井のペースは上らず苦しい闘いとなりましたが、コース各所で黄旗が提示されていたことにも助けられ、後続からは脅かされながらもポジションを守り切り、3位入賞を果たしました。#6 西村は9位でレースを終えました。

この結果、#5 小出はポイントランキングで#7 三井を逆転しポイントリーダーとなりました。またチームとして10勝目を飾ったHFDPは、この段階で今季のチームタイトル獲得を決めました。

【FIA-F4 選手権シリーズ 11 戦・レース結果】

#5 小出 峻 決勝 1 位 (25 分 58 秒 286 ベストタイム 1 分 54 秒 011)
#7 三井 優介 決勝 3 位 (26 分 00 秒 326 ベストタイム 1 分 54 秒 180)
#6 西村 和真 決勝 9 位 (26 分 05 秒 451 ベストタイム 1 分 55 秒 007)

■第 12 戦決勝レース (13 周) : 天候/晴れ 路面/ドライ



日曜日午前 8 時 30 分、快晴の空の下で第 12 戦のフォーメーションラップが始まりました。ところがフォーメーションラップに動き出した上位陣の車両が突然ミッショントラブルを起こしてスターティンググリッドから 1 コーナーにかけてオイルが漏れ出し、レースは前日の第 11 戦に続きスタートディレイとなりました。

コースの清掃が行われた後、レースは前日に引き続き 1 周減算の 12 周となり、さらにスタートはセーフティーカー先導で切られることになりました。セーフティーカーは 2 周にわたって先導した後退去、実質的なレースは 3 周目から始まりました。

先頭の#5 小出は前日のレースでタイヤを温存していたこともあり、スタート直後から周回毎に後続を引き離してトップの座を確実なものとしていきました。一方、3 番手スタートの#7 三井は前日のレースでタイヤを消耗させており、2 番手#35 荒川選手からはじりじり引き離され、後方から攻め立てられる展開となりました。5 番手のスタートの#6 西村は自分のポジションを守ってレースを始めましたが、やはり後方から攻め寄られる状況となりました。



トップの#5 小出は周回毎に後続を引き離し、独走状態に持ち込みました。一方#7 三井も一時期はテールトゥノーズに持ち込まれた後続との差をじりじりと引き離し 3 番手のポジションを確立していきました。5 番手の#6 西村は後続を押さえ込みながら 5 番手争いの集団を率いる形でレースを続けました。

結局、#5 小出は後続を 4 秒近く引き離して 2 戦連続のポールのトゥインで 2 連勝を飾りました。#7 三井はやはり 2 戦連続で 3 位入賞を果たし#5 小出と共に表彰台へ上がりました。また#6 西村は 5 位を守り切りチェッカーフラッグを受けました。

2 連勝を遂げた#5 小出はシリーズポイントを 236 点に伸ばし、#7 三井との差を 14 点に広げてポイントリーダーとしてツインリンクもてぎでの最終大会を迎えることになりました。2 番手#7 三井は 222 点で年間ランキング 2 位以上のポジションを確定、#6 西村はランキング 8 番手を守りました。

【FIA-F4 選手権シリーズ第 12 戦・レース結果】

#5 小出 峻 決勝 1 位 (24 分 56 秒 271 ベストタイム 1 分 53 秒 075)

#7 三井 優介 決勝 3 位 (25 分 03 秒 256 ベストタイム 1 分 53 秒 748)
#6 西村 和真 決勝 5 位 (25 分 06 秒 980 ベストタイム 1 分 54 秒 118)

■2022FIA-F4 選手権シリーズポイントドライバーランキング (2022 シーズン第 12 戦終了時点)

1 番手 #5 小出 峻 236 点
2 番手 #7 三井 優介 222 点
8 番手 #6 西村 和真 58 点

(1 位 25 点、2 位 18 点、3 位 15 点、4 位 12 点、5 位 10 点、6 位 8 点、7 位 6 点、8 位 4 点、9 位 2 点、10 位 1 点)

■2022FIA-F4 選手権シリーズポイントチームランキング (2022 シーズン第 12 戦終了時点)

1 番手 HFDP 293 点
(各チーム最上位のみ計上)

●ドライバーズコメント : #5 HFDP RACING 小出 峻



この週末は完璧ではありませんでした。自分で点をつけるなら 95 点かな。マイナス 5 点は、土曜日のレースのスタートです。自分のクラッチの繋げ方も良くはなかったんですが、この時季のオートポリスは寒暖差が大きくて、朝は寒いんですけど昼間は暑くなる。それでスタート前にタイヤを温めすぎると、逆に路面に張り付いちゃって蹴り出しが悪くなってしまいうんです。今回のスタートも蹴り出し自体は悪くありませんでしたが、その後一気に失速してしまった感じだったのでマ

イナス 5 点。でも全体的な走りに関しては自分としては満足してます。第 11 戦ではタイヤのマネージメントを考えてペース落として走り、第 12 戦ではその効果がしっかり現れたと思います。オートポリスはタイヤに厳しいサーキットなので、むやみやたらに攻めると、他のコースとは比べものにならないくらいタイヤが消耗してしまいます。そういう意味では今週末、レース全体を通してうまくマネージメントできたなと思います。



●ドライバーズコメント : #6 HFDP RACING 西村 和真

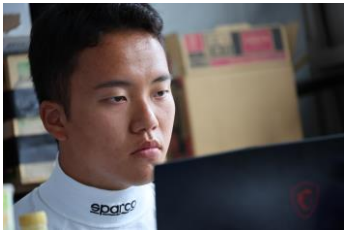


木曜とか金曜の午前の練習走行は、赤旗があつたり天候が悪くなつたりとかで十分アタックの練習はできず、自分がどの程度のポジションにいるのかよくわからなかったんですが、金曜の練習走行最後のセッションで、タイヤの程度が良かったこともあるとはいえ全体 2 番手で、初めて良い感じ



かなと思えました。ただ、公式予選ではコンディションの変化にうまく対応できず、5 番というリザルトになりました。第 11 戦に関しては、スタートで少し失敗してポジションを落とした上、その後もペースが上がらず、かけ引きでも行ききれなかった部分があつて、レースの内容は今年 1 番良くなかったです。それを踏まえて、第 12 戦ではスタートがいつもとは違う形になりましたけど、後ろから来るクルマはしっかり押さえて、ミスもせずポジションを落とすことなくフィニッシュできたのは進歩だったと思います。これまでほとんど同じことを何度も繰り返してきたので、順位は上げられませんでしたけど最低限、ちょっとは成長できたかなと思います。

●ドライバーズコメント：#7 HFDP RACING 三井 優介



前回の SUGO、今回のオートポリスと自分の走行経験が浅いところのレースが続きました。SUGO では、最後の方までコースにドライビングを合わせることができないままセットアップを進めて着地点を見失ってしまったところがありました。そこで、今回はまずはドライビングに集中して自分を仕上げ、そこから調整していきました。その結果、SUGO よりも安定して走れ、成長できたかと思います。ただ、

予選ではアタック 1 回目に滑らせすぎるといふミスをしてしまい、なんとか3番手には行けましたがミスがなければ2番手に行けたと思うんです。でも小出選手の速さには及びませんでした。小出選手から学ぶことはまだまだいっぱいあるんだと再認識して、次に向けて頑張ろうという気合いが入った予選でした。第11戦は、レース後半のペースが上がらず自分でミスもしたため後に近づけられましたが、ポイントランキング的に絶対表彰台に上がらなければいけないとバトルしました。SUGO ではバトルに負けた面もあるんですが今回は守り切ったので改善できたかなと満足です。第12戦は、第11戦でタイヤの摩耗を進めてしまったので苦しいなと思いながらレースをしました。どんどんペースが下がって反省点が多かったです。

